

見学研究会

「現代日本の美術館・博物館、今後の回生の方向性」

熱海MOA美術館：設立 33 年 改修建替えを超えて

— 数千数万の美術館・博物館アールスペース、これからを考える —

本委員会メンバーが関わった静岡県熱海市の MOA 美術館、設立 33 年が過ぎようとしており、迫り来る設備の老朽化、美術館の在り方・展示の考え方の変化、地域との連携再構築、美育教育への取組み、来館者の減少を食い止める魅力ある整備等、対応が急がれた点は全国美術館博物館と同様である。

今回の見学研究会では、先ずはこの館がどう考えどう対応したかを見て戴き、其の後にコメンテーターを含め参加者での議論を充実したものとし、今後の美博ギャラリーを見据えたいと考えている。

設計計画のベースに、大きく変わって来た美術館博物館の理念や設計計画の考え方があり、コメンテーターとして、そうした時代変化を良くご存知の半澤重信先生を第 1 報告者、現代から今後の在り方を研究している大原一興先生を第 2 報告者として、後半の研究会を進めたい。

現在、文化庁が把握している有力館だけでも 5 千館は在り、法人化していない個人美術館等を加えると数万館を超え、今後の在り方、運営、社会との連携等々、特に人口減少社会における課題は多い。

国宝 3 点、重文 10 数点を有する有力美術館であるが、今後の魅力増進を考え展示空間の演出・デザインにアーティストを起用したこと、海外事例にも倣いカフェ・レストラン等の休息空間を充実したこと、ゆったりした空間構成を活かしながら、類を見ない景色の良さも魅力として取り込んだこと、そして復元文化財である『黄金の茶室』あるいは『光琳屋敷』等の空間的コンテンツも活かす工夫など、多くの魅力を連携させて大きな魅力を創る場を考えたい試みを、参加者と議論したい。

主催：建築計画委員会 計画基礎運営委員会 情報設計小委員会

日時：2017 年 3 月 6 日（月）13：30 ～17：00

会場：熱海 MOA 美術館（静岡県熱海市桃山町 26 / 東海道線・熱海駅より東海バス直通）

<プログラム（予定）> 司会：湯本長伯（主査：神戸大学）

主旨説明：湯本長伯（主査：神戸大学）

1. 改修概要と新しい館の在り方：MOA 美術館（内田篤呉館長）

収蔵品に合わせた展示空間の考え方、カフェ・レストラン等のサポート空間の充実
アプローチ空間の充実と万華鏡作家の起用、景観等の空間要因を活かした演出設計、
展示スペース計画へのアーティスト起用、庭園や外部景観を活かした魅力増進、等々

2. デザインビルド事業の概要：竹中工務店（設計部門＋施工部門）

3. 見学：15 名ずつに分けて個別説明付き（定員 40 名まで）

4. 質疑応答および討論：コメンテーター（半澤重信・半澤重信研究室代表 / 大原一興・横浜国立大学）

まとめ：村上晶子（明星大学）

参加費：会員 500 円、会員外 1,000 円、学生 300 円（資料代含む / 当日会場払い）

定員：40 名（申込み先着順）

申込方法：催し物名称、氏名・勤務先・所属・同居所・同電話番号を明記し、下記までお申し込みください。

申込・問合せ：湯本 長伯（神戸大学） E-mail: nagyumt@kyudai.jp

申込み締め切り：2017 年 2 月 28 日（火）